

# この環境報告書について

## 編集方針

キリングroupは日本、オセアニア、アジアを主要事業地域とする「国内ビール・スピリッツ」「国内飲料」「オセアニア総合飲料」「医薬」および「その他の事業」を行っています。売上高の約65%は、「国内ビール・スピリッツ」「国内飲料」「オセアニア総合飲料」によるものです。キリングroupは、CSV（社会と共有できる価値の創造）を事業運営の根幹に据えて、価値創造のサイクルを回し続けることで、持続的な成長を目指しています。その中で重点的に取り組む社会課題の1つとして環境を設定しています。この報告書は、このようなキリングroupの事業の特性と環境の取り組みの位置付けを考慮して、編集しています。

## 企業情報開示場所

本報告書を含むキリングgroupの企業活動情報は、株主や投資家の関心から、お客様をはじめとする地域社会の幅広いステークホルダーの皆さまの関心に合った、多様な情報を開示しています。

### キリンホールディングス IR・投資家情報

<https://www.kirinholdings.co.jp/irinfo/>



### キリンホールディングス 社会との共有価値 (CSV) サイト

<https://www.kirinholdings.co.jp/csv/>



### KIRIN CSV REPORT (統合報告書)

<https://www.kirinholdings.co.jp/irinfo/library/integrated/>



### キリングroup環境報告書

<https://www.kirinholdings.co.jp/csv/report/env/>



### 協和キリン アニュアルレポート

<https://ir.kyowakirin.com/ja/library/annual.html>



### ライオン サステナビリティ・サイト

<https://www.lionco.com/sustainability>



### キリン 環境への取り組み

<https://www.kirin.co.jp/csv/eco/>

私たちの環境活動について、楽しく分かりやすくお伝えしています。



## 報告対象期間

特に明記のないものは、2019年度（1月～12月）の情報です。

必要に応じて過去3年～5年程度の推移データを掲載しています。

## 報告対象組織の範囲（2019年度）

事業	会社
国内ビール・スピリッツ事業	キリンビール、キリンディスティラリー、スプリングバレーブルワリー、永昌源 麒麟啤酒（珠海）有限公司
国内飲料事業	キリンビバレッジ、信州ビバレッジ、北海道キリンビバレッジ、キリンメンテナンス・サービス、キリンビバレッジサービス各社（北海道、仙台、東京、中部、関西） 函館ダイイチベンディング、キリンビバックス、東海ビバレッジサービス
オセアニア総合飲料事業	ライオン
医薬事業	協和キリン、協和キリンフロンティア、協和メディカルプロモーション 協和キリンプラス、協和発酵麒麟（中国）製薬有限公司 Kyowa Kirin Pharmaceutical Research
その他事業（全社を含む）	メルシャン、日本リカー、第一アルコール、ワインキュレーション、ミャンマー・ブルワリー インターフード、ベトナムキリンビバレッジ、AZUMA KIRIN、フォアローゼズディスティラリー 協和発酵バイオ、協和ファーマケミカル、協和エンジニアリング、BioKyowa Inc. 上海協和アミノ酸有限公司、Thai Kyowa Biotechnologies Co., Ltd. キリンホールディングス、キリンビジネスエキスパート、キリンビジネスシステム、小岩井乳業 キリンエコー、キリンアンドコミュニケーションズ、キリンエンジニアリング キリンシティ、キリンテクノシステム、キリングroupロジスティクス

※ライオンは2019年11月25日に飲料事業部門の株式譲渡契約締結を、AZUMA KIRINは2020年3月18日に株式譲渡したことを発表済み

## 環境データ算定方法

環境データの算定方法については [\(→P.90～P.92\)](#)

## 参照したガイドライン

- GRIスタンダード
- 環境省 環境報告ガイドライン(2018年版)
- 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD) 勧告(2017)
- CDSBフレームワークv2.2(2019年12月版)
- SASBスタンダード(2018年10月版) 食品・飲料セクター/アルコール飲料産業およびノンアルコール飲料産業

[\(→P.114～P.121\)](#)

本環境報告書に掲載された見直し、目標、計画など将来に関する記述については、資料作成時点の当社の判断に基づくものですが、様々な要因の変化により記述とは異なる結果となる不確実性を含んでいます。またリスクと機会については、必ずしも投資家の判断に重要な影響を及ぼすリスク要因に該当しない事項も、積極的な情報開示の観点から記載しています。なお、キリングgroupは、事業に関連した様々なリスクを把握・認識したうえで、リスク管理体制を強化し、その予防・軽減に努めるとともに、リスクが顕在化した場合の対応には最善の努力をいたします。

## キリングroup環境ビジョン2050のもと、社会全体にポジティブインパクトを

新しい令和の時代を迎え、日本での大規模な台風被害やオーストラリアでの森林火災、さらには新型コロナウイルスのアウトブレイクなど、世界を取り巻く情勢は一層不透明感を増しています。私は、このような不透明・不確実な時代だからこそ、ぶれたり迷ったりすることなく、しっかりと「軸」を持ってグループ経営を進めることが大切だと考えています。その確かな「軸」となるのが、2013年から取り組んできたCSV経営です。今年度からは、財務目標だけでなく非財務目標としてCSVコミットメントの進捗・達成度を役員報酬の評価項目に加え、CSV経営を組織に一層浸透させていきます。

環境問題でいえば、パリ協定を起点に「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」などの国際的なイニシアティブが数多く立ち上がり、また、プラスチックによる海洋汚染が世界的な問題とし

て議論されるなど、グローバルに取り組みが進んでいます。さらに、企業の環境施策も、自社で完結できるものから、社外のステークホルダーとともに取り進めるものへと発展してきています。こうしたなか、キリングgroupでは従来の環境ビジョンを見直し、社会と企業のレジリエンス強化へ向けた新たな長期戦略「キリングgroup環境ビジョン2050」を策定しました。このビジョンのもと、自社拠点で生じるネガティブインパクトを抑制するだけでなく、社会全体にポジティブなインパクトを生み出すことで、これからの世代を担う若者をはじめとする社会とともに、ここ豊かな地球を次世代につなげていきたいと考えています。キリングgroupは、発酵・バイオ技術やモノづくり・エンジニアリングの「強み」を活かし、環境、食と健康、地域などの社会課題の解決に取り組んでまいります。



磯崎 功典

キリンホールディングス株式会社  
代表取締役社長



### グループ経営理念

キリングgroupは、  
自然と人を見つめるものづくりで、  
「食と健康」の新たなよこびを広げ、  
こころ豊かな社会の実現に貢献します

### 2027年の目指す姿

食から医にわたる領域で価値を創造し、  
世界のCSV先進企業となる

### “One KIRIN” Values

熱意 誠意 多様性  
Passion Integrity Diversity

### グループ経営理念

キリングgroupは、自然と人を見つめるものづくりで、「食と健康」の新たなよこびを広げ、こころ豊かな社会の実現に貢献します

### 2027年の目指す姿

食から医にわたる領域で価値を創造し、世界のCSV先進企業となる

### 経営成果

経済的価値の創造 (財務目標の達成) ・  
社会的価値の創造 (非財務目標の達成)

### 戦略の枠組み



### イノベーションを実現する組織能力

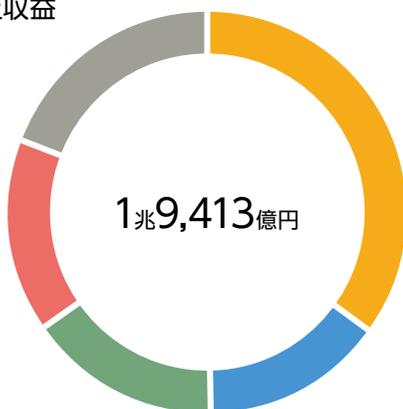
お客様主語のマーケティング力	確かな価値を生む技術力
多様な人材と挑戦する風土	価値創造を加速するICT

### 価値観

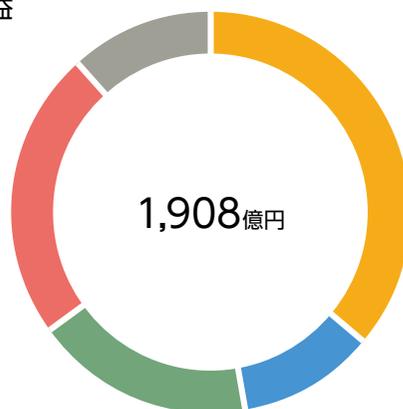
“One Kirin” Values 熱意、誠意、多様性 “Passion, Integrity, Diversity”

# 事業概要

売上収益



事業利益



- 国内ビール・スピリッツ 35.1%
- 国内飲料 14.8%
- オセアニア総合飲料 15.4%
- 医薬 15.7%
- その他 19.0%

- 国内ビール・スピリッツ 36.2%
- 国内飲料 11.2%
- オセアニア総合飲料 17.6%
- 医薬 23.5%
- その他 11.5%

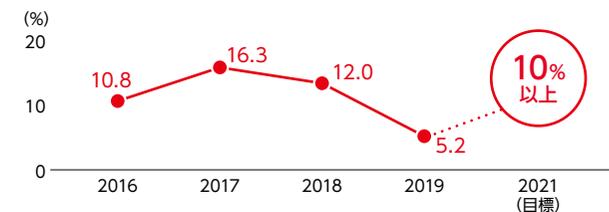
セグメント	食領域	医領域	ヘルスサイエンス領域	会社
国内ビール・スピリッツ	●			麒麟ビール
国内飲料	●			麒麟ビバレッジ
オセアニア総合飲料	●			ライオン
医薬		●		協和麒麟
その他	●		●	メルシャン マンマー・ブルワリー 協和発酵バイオ 上記以外

## 会社概要

**商号** 麒麟ホールディングス株式会社  
 Kirin Holdings Company, Limited  
**設立** 1907年(明治40年)2月23日  
※2007年7月1日持株会社化に伴い「麒麟麦酒株式会社」より商号変更  
**本社所在地** 〒164-0001  
 東京都中野区中野4-10-2 中野セントラルパークサウス  
**資本金** 102,045,793,357円  
**従業員数** 31,040人  
※麒麟ホールディングス連結従業員数、2019年12月31日現在

## 資本効率性

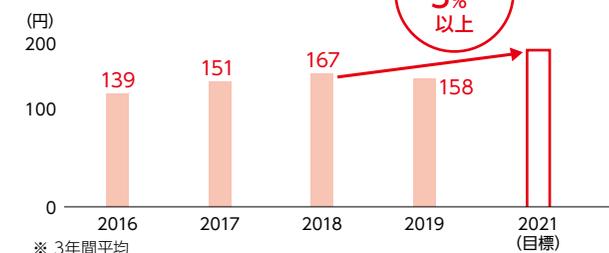
ROIC (投下資本利益率)



※ 2019年度に会計方針を変更したことに伴い、2018年以前の数値を遡及修正しています。

## 収益性・成長性

平準化EPS



※ 3年間平均

## 自社の枠組みを超え、環境課題を解決します

本年は新型コロナウイルスの感染拡大で、日本では緊急事態宣言、海外でもロックダウンと、経済活動は甚大な影響を被っています。一方その間、喫緊の課題といわれながら必ずしも世界が一体となって取り組めてきたとはいえなかった温室効果ガスの排出量が減少し、世界中の大都市に澄んだ青空が戻っているのを目にしますと、自然からの何らかのメッセージではないかと感じる人も多いのではないのでしょうか。

IPCCの1.5℃特別報告書では、地球温暖化は既に相当進んでおり、対策が進まない場合のネガティブインパクトは甚大だと示されています。キリンググループが実施したシナリオ分析でも、重要な原料である農産物と水資源に大きな影響があることが明らかになっています。

一方、シナリオ分析では、気候変動の緩和策や適応策を強化することで、ネガティブな影響を低減し、事業機会を獲得できる可能性も見えてきています。

本年新たに策定した「キリンググループ環境ビジョン2050」は、このような状況の中で社会と企業のレジリエンスを強化する長期戦略です。その一番重要なメッセージは「ポジティブインパクト」です。ネガティブインパクトをなくすにとどまらず、自社の枠組みを超えて社会にポジティブなインパクトを生み出し、次の世代

をも巻き込んで環境課題を解決していきます。

昨年は「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」の環境大臣賞金賞など、キリンググループの取り組みはたくさんの高い評価をいただくことができました。このような栄誉に恥じないよう、またそれに満足することなく、これからも自然環境の保全と事業の持続的成長を両立させるCSV経営でリーダーシップを発揮していきます。オーストラリアでは、グループ会社のライオンは今年カーボンニュートラル認証を取得し、2025年までには電気を再生可能エネルギー100%にすることを目標に掲げています。グループ全体でも2050年までのバリューチェーン全体でのカーボン・ネットゼロを目指し、RE100やSBT1.5℃に早急に対応したいと考えています。本年6月にはグリーン・リカバリーへの賛同宣言にも署名しました。容器包装は、2050年までにリサイクル材とバイオマスで100%持続可能なものにしていきます。生物資源では、レインフォレスト・アライアンスの認証取得支援をベトナムのコーヒー農園にも拡大します。

キリンググループがシンボルとして掲げる聖獣の「麒麟」は、虫を踏まず、草を折らない、自然を守る生きものです。私たちは、「麒麟」のように豊かな自然を次世代に残していけるように、これからも挑戦を続けてまいります。



キリンホールディングス株式会社  
常務執行役員  
(CSV戦略担当グループ環境総括責任者)  
**溝内 良輔**

# キリングroupの価値創造モデル (ビジネスモデル)

## グループ経営理念

キリングroupは、自然と人を見つめるものづくりで、「食と健康」の新たなよるこびを広げ、こころ豊かな社会の実現に貢献します



詳しくは「KIRIN CSV REPORT 2020」のP.27~28をご覧ください。

<https://www.kirinholdings.co.jp/irinfo/library/integrated/>